

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	第7光陽		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年5月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名(兄弟利用1家族含む)	(回答者数) 40名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年5月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 6月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラム構成	5年後、10年後先を見据えた上でのプログラム構成を行っており、継続して取り組むことで力となることを見据えて実施している。又、ご利用者様の状態像に合わせた、グループ編成を行い、ステップアップできるようにしている。	療育を通して、楽しいだけでなく苦手なことにもチャレンジできるようにきっかけ作りを行い、達成感を感じられるような内容にしていく。
2	就労部門との連携が図れ 療育内容に展開されている	・学年が上がり、将来的な進路を考えられるきっかけがある。定期的な勉強会があることで、保護者様が進路のイメージが図れる。 ・ご利用者様自身は、憧れとなる大人を間近で感じることができる。学年ごとに必要な姿勢・人との関わり方を学べるように、体験型やステップアップが図れるようにしている。	・保護者様には、法改正に応じた内容で説明会の実施を継続していくと共に、対象学年の保護者様には懇談時にもお話を する。 ・ステップアップを図る際に、競争方式を実施し、評価されることに意識を持てるようにすると共に、勝つこと、負けることの体験を積み、努力することの大切さを学べるようにしていく。
3	SNSの活用	毎日必ず活動の様子を発信しています。 活動の内容を知っていただけるようになっています	動画も配信していけるようにしていく。 また、ご利用回数が少ない方を対象に、LINE配信などで個別に具体的な様子をお伝えできるよう工夫をしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会があることについての周知が低い。	同じ建物内には、学童クラブや体操教室の企業が入っているが、日頃の関りはあるが交流の頻度は少ない為、印象が薄いと考えられる。	Instagram・Facebook等のSNSでの発信の頻度を検討し、周知して頂けるようにする。交流回数を検討し、企業様と双方に発信をしていけるようにする。
2			
3			